

議事要旨

1. 日 時 令和5年12月28日（木）13:00～15:30

2. 会 場 オンライン会議（ZOOM、主催会場：東京大学）

3. 出席者

出席：佐竹健治、森口祐一、藪田ひかる、稲葉俊哉、臼田裕一郎、江守正多、大久保泰邦、片岡香子、唐沢かおり、川口慎介、川幡穂高、佐藤薫、鈴木康弘、関谷直也、高橋桂子、谷本浩志、中村尚、新野宏、原田尚美、藤井良一、益田晴恵、谷田貝重紀代、山岡耕春、山口紀子、山本佳世子、横山広美、渡邊誠一郎

オブザーバー（委員追加申請予定）：標葉隆馬、関村直人

欠席：なし

4. 議 事

（1）分科会の設置目的と委員の紹介

佐竹委員より、配付資料に基づき、分科会の設置目的及び経緯の説明がなされた。

その後、出席者全員の自己紹介を行った。

（2）役員を選出

第26期役員の設定について委員の互選及び委員長による指名によって、以下のように決定した。

委員長：佐竹健治

副委員長：藪田ひかる

幹事：谷本浩志、片岡香子

（3）議事要旨の提出に関する委員長一任について

議事要旨を迅速に公開するため、メールで回覧・修正後に、委員長に一任して提出することを承認した。

（4）分科会委員間のメールアドレス共有について

委員会メンバー間でメールアドレスを共有することについて、承認した。

（5）原子力災害対策への放射性物質拡散予測の積極的な利活用について

高橋委員より、前期（第25期）に本分科会から発出された見解「より強靱な原子力災害対策に向けたアカデミアからの提案—放射性物質拡散予測の積極的な利活用を推進すべき時期に来たと考えます」の紹介があり、意見交換を行った。

また、関村オブザーバーより、総合工学委員会原子力安全に関する分科会の活動及び2024年1月22日に開催される原子力総合シンポジウム紹介があり、意見交換を行った。

（6）危機における学術からの情報発信の仕組みについて

委員長より「危機における学術からの情報発信の仕組みについて」は第26期の課題として上げられるため、課題に関する話題提供や問題提起を依頼したとの説明があった。

新野委員より、東日本大震災の際の日本気象学会の対応について説明があった。

佐藤委員より、日本気象学会における最近の取り組みの説明があった。

山岡委員より、火山活動や地震等の発生時における我が国の体制に関する説明があった。

横山委員より、危機発生時における助言のあり方について、特に「ワンボイス」、「グループボイス」方式の説明があった。

その後、意見交換を行った。

(7) 今期の活動方針・予定について

今後、委員からの意見や提案などは役員（委員長、副委員長、幹事）宛に知らせること、あるいはメールリストを活用することとした。次回の分科会は、来年度4月以降を予定。

(8) その他

なし。